

未来の車(日産・ピボ)発表会場にトマトの森が！

10月21日～11月6日幕張メッセで開催される東京モーターショーに先駆けて日産自動車は、この9月30日～10月2日に日産銀座ギャラリー(東京都中央区)にて次世代型の電気自動車「ピボ」の記者発表および一般公開を実施し参加者7,000人と大盛況の内に終了されましたが、弊社による水耕トマトがお手伝いをさせていただきました。

この展示イベントをプロデュースされたのが世界的アーティスト村上隆氏。氏は、六本木ヒルズのキャラクター「ロクロク星人」のデザインでも有名ですがルイヴィトンとのコラボレーションイベントを開催するなど世界的に活躍されているアーティストです。日産さんからピボのキャラクターおよびイベントのプロデュース依頼を受けたとき、「直感的に水耕栽培をイメージしたので発表の場

にどうしても置きたい」と弊社に依頼がありました。

会場となった銀座のギャラリーに千葉の農家さんに依頼したトマト150株を持ち込み、栽培システムも圃場と同じように設置したものです。赤い実をつけたトマトの森が、ピボの求める「かわいらしさ、やさしさ」に似合った雰囲気醸成しだし好評でした。喜ばれる姿に徹夜作業の疲れも吹き飛ばす思いでした。

ピボは、全長2700×全幅1600×全高1660mmとコンパクトなサイズですが運転席(キャビン)が180度回転する独創的な構造が特徴です。都市で生活する若い女性の「こんなクルマがあったらいいな」という要望を具現化した三人乗りのコンセプトカーとのことで、狭い駐車場に頭から入れても、キャビンの向きを前後逆にすればバックで出なく

ですむ。このキャビンをクルクル反転させることを可能にしたのは、X by Wireと名付けられた日産さんの遠隔操作技術。ステアリング、ブレーキ、出力制御などはすべて電気信号による遠隔制御で行われ、キャビンとプラットフォーム部分のあいだにはシャフトやパイピングといった機械的な結合部分はまったくありません。航空機などには採用されているこのパイワイヤ技術を初めて車に搭載など最新の電気自動車技術やIT技術が駆使されています。まだ公道は走れませんが10年後には売り出したいとされるなど完全に未来型の車です。1回の充電で100～115km走り、最高速度は時速80km。東京モーターショーで見ることが出来ますので、ぜひお出かけください。

(担当 神谷高裕)



村上隆氏(左側)

